

■令和 7(2025)年度学習院女子大学一般選抜・英語 解答例・解説＜A 方式＞

【解答例】

[I] 1. C 2. A 3. D 4. B 5. B 6. A 7. C 8. D 9. C 10. B

[II] 1. B 2. C 3. D 4. D 5. C 6. A 7. B 8. A 9. C 10. C

[III] 1. D 2. B 3. A 4. C 5. A 6. A 7. B 8. A 9. D 10. B

[IV] 1. On [upon] 2. from 3. to 4. that 5. Was [remained]

6. over [up, on] 7. has 8. with 9. for 10. as

[V] My favorite Japanese festival is Obon. This is because I can reunite with my relatives and old friends, as many people return to their hometowns during this period. Another reason is that I like participating in seasonal events such as Bon dances and local summer festivals. It is great fun to stroll around in a *yukata*, the summer version of *kimono*, and to buy food like *takoyaki* from stalls. Obon brings back good memories of my childhood.

(77 語)

【解説】

[I]

1. [] は「…を[]する；[]する」の意味でCが最も近い意味になります。
2. [] 〈数値〉で「〈数値〉の[]を[]る」という意味の表現になります。
3. [] は「[]」という意味の他に「[]」という意味があり，ここでは後者の意味で用いられており，Dが最も近い意味になります。
4. 第2段落第1文([] …)・第2文([] …)の内容にBが一致します。
5. 第3段落第1文([] …)・最終文([] …)の内容から[]であることがわかり，Bがその内容に合います。
6. 第4段落第3文(「[] …」)の内容にAが一致します。
7. 第5段落最終文([] …)の内容にCが一致します。
8. 第6段落第4文([] …)の内容にDが一致します。
9. 第6段落最終文([] …)の内容にCが一致します。
10. 最終段落最終文([] …)の内容にBが一致します。

[II]

1. help 〈人〉 with 〈仕事〉で「〈人〉の〈仕事〉を手伝う」という意味の表現です。
2. launch は「〈活動など〉を始める；〈新製品など〉を売り出す」という意味の他動詞です。
3. 空所にはThe car を先行詞として，is parked に対する主語の働きをする主格の関係代名詞 which が入ります。
4. maintain は「…を維持する」という意味の他動詞です。
5. because は「…なので」という意味の接続詞で主節に対する理由を表す副詞節を導きます。
6. 命令文や must や have to 「…せねばならない」という命令的な内容の後に or が続くと「もしもしないと」という条件を表します。ここでは「もし今出発しなければ列車に遅れますよ」という内容を表します。ちなみに同じく命令的な内容の後に and が続くと「もしそうすれば」という意味の条件を表します。(例) We have to leave now, and we' ll catch the train. 「今出発すれば列車に間に合います」
7. couldn' t put … down で「(本・ゲームなどが) 面白くてやめられない」という意味の表現です。
8. recognize A for B で「B のことでA を表彰する；評価する」という意味の表現です。
9. 主節が would have passed と〈助動詞過去形+have p. p.〉という形になっていることから，仮定法過去完了 (=過去の事実と反する仮定) であると判断します。仮定法過去完了の条件節は〈had p. p.〉とします。
10. instead of …で「…の代わりに」という意味の表現です。

[Ⅲ]

1. have a test で「テストを受ける」という表現です。
2. What kind of …?で「どんな種類の…」という意味の表現です。
3. belong to …で「…に所属している」という意味の表現です。
4. 空所直後で Miki が「練習したけどあまり自信がない」といっていることから、feel nervous「緊張している；不安になる」が適切です。
5. 直前の David の発言を受けて I appreciate your …「あなたの…に感謝している」と述べているのですから、空所には support「支援；はげまし」を入れるのが適切です。
6. play the 〈楽器〉で「〈楽器〉を演奏する」の意味の表現で、これが現在完了進行形で用いられて〈have been -ing〉という形になっています。
7. love -ingだと「(習慣的に) ーすることが好きだ」という意味ですが、would love to -とすると「ーしたい」という意味になり、ここでは後者の用法です。listen は自動詞のため listen to …とする必要があります。hear O 原形で「O がーするのを聞く」という意味になります。
8. hold 〈会合など〉で「…を催す」という意味になります。ここではその受動態が用いられています。
9. make sure to -で「必ずーするように手配する；気を付ける」という意味の表現になります。
10. 最後に Miki を励ますような発言が入ります。Good luck で「幸運を祈る」という意味の表現です。

[Ⅳ]

1. be based on [upon] …で「…に基づいている」という意味の表現です。
2. from A to B で「A から B へ」という意味の表現です。
3. be similar to …で「…に似ている」という意味の表現です。
4. mean は「…を意味する」という意味の他動詞ですが、空所の後ろには it is …と文が続いているので接続詞の that を入れると、mean に対する目的語になる名詞節を導きます。
5. 空所の前後で「京都＝日本の首都」という関係ができていますので、S <be> C「S は C だ」もしくは S remain C「S は C のままだ」を入れると文意が通ります。Until the 19th century「19 世紀まで」という表現があることから、過去時制にして was もしくは remained が正解となります。
6. take over …で「…を引き継ぐ」という意味になります。もしくは take up …「〈任務・地位〉に就く」や take on …「…を引き受ける」でも正解となります。
7. 空所の前に since …「…以来ずっと」という表現があり、空所のうしろに is という現在時制があることから、“過去から現在にかけてずっと”という意味の現在完了にして〈have p.p.〉とする必要があります。ここでは主語が the city と単数形ですから三人称単数現在形の has が正解となります。
8. be filled with …で「…で満たされている；…で一杯だ」という意味の表現になります。
9. be famous for …で「…のことで有名だ」という意味の表現になります。
10. be known as …で「…として知られている」という意味の表現になります。

■令和 7(2025)年度学習院女子大学一般選抜・英語ライティング 解答例＜A 方式＞

【解答例】

I.

1. [While you are] young, study hard or you'll regret it later on. (9 words)
2. [Why hasn't he] replied to the email I sent yesterday? (7 words)
3. [She assumed] that he would accept the job offer, but he didn't. (10 words)
4. [Would you like me] to make some fresh coffee for you? (7 words)
5. [We don't want anything] to eat, since we had lunch before we left home. (10 words)

II

One advantage of self-driving cars is that they can prevent traffic accidents caused by human error. However, I would not like to use one. Driving is an enjoyable experience for me, and I do not want to lose that. Although self-driving cars may allow people to take control when necessary, people's driving skills will decline if they rely too much on automation, which could lead to more accidents in the long run. For example, if a self-driving car encounters heavy snow or a flooded road, it may not function properly, and the driver might have to take over. However, if the driver has too little experience, he or she may not react quickly enough. In emergencies, such as avoiding a sudden obstacle or handling brake failure, human judgment and experience are crucial. Without regular driving practice, people may not be able to respond effectively in such situations.

(147 words)

■令和 7 (2025) 年度学習院女子大学一般選抜・英語 解答例・解説<B 方式>

【解答例】

[I] 1. C 2. C 3. A 4. D 5. D 6. D 7. B 8. C 9. A 10. B

[II] 1. B 2. A 3. D 4. C 5. A 6. B 7. D 8. C 9. B 10. A

[III] 1. B 2. C 3. A 4. D 5. B 6. A 7. B 8. C 9. B 10. C

[IV] 1. for 2. in 3. not 4. with 5. be 6. of 7. that 8. Are

9. at [during] 10. or

[V] Regular exercise helps our bodies stay strong and healthy. When we exercise, our muscles work hard and become stronger. This makes it easier to do daily tasks and lowers the chance of getting sick. Exercise also gives us a chance to join sports clubs and meet new people. Playing in teams or groups allows us to make friends and have fun. During exercise, we also practice teamwork and improve our concentration.

(71 語)

【解説】

[I]

1. encourage O to -で「Oに一するよう奨励する」の意味で、Cが最も近い意味になります。
2. turn A into Bで「AをBに変える」という意味の表現です。
3. richは「裕福な」という意味の他に「(多様性にあふれて)豊かな; 多彩な」という意味もあり、ここでは後者の意味で用いられており、Aが最も近い意味になります。
4. 第1段落最終文(A visit to ...)の内容にDが一致します。ここではあくまで「日本でイギリス料理の評判がよくないのにイギリスで日本人が外食をするから驚きだ」といっているのであり、イギリス料理が美味しくないことに驚いているわけではないので、Aは誤りです。
5. 第2段落第3文(Unlike many museums ...)の内容にDが一致します。第2段落第2文(Now more than ...)で「270年以上」とあり、Bが紛らわしいのですが、Bのnearly 270 yearsは「270年近く」という意味で270年には至っていないことを示しており、誤りです。
6. 第2段落第4文(Visitors can see ...)の内容にDが一致します。
7. 第3段落第2文(Although not as ...)・第3文(Warley Museum, situated ...)の内容にBが一致します。
8. 第3段落第5文(The reason for ...)の内容にCが一致します。
9. 第4段落第4文(Although looking at ...)の内容にAが一致します。
10. 最終段落第4文(However, there are ...)の内容にBが一致します。Aが紛らわしいですが、最終段落第3文(One reason is ...)では「イギリスの長い歴史」と述べられているのに対し、Aのbriefは「短い」という意味なので誤りです。

[II]

1. speak upで「はっきり意見を述べる」という意味の表現です。
2. organizeは「(行事・活動など)を準備する; 催す」という意味の他動詞です。
3. at one's convenienceで「...の都合の良いときに」という意味の表現で、at one's earliest convenienceとすると「...の都合がつき次第; なるべく早く」という意味になります。
4. stop by ...で「...に立ち寄る」という意味の表現です。
5. expect that S will Vで「SがVすることを予想する」という意味の表現ですが、ここでは過去時制で用いられているためwillが時制の一致を受けて過去形のwouldで用いられています。
6. leave A with Bで「BにAを預ける; 託す」という意味の表現です。
7. exactlyは疑問詞の前後に置くと「正確には; いったい」という意味でより詳しい情報を求めるための表現として用いられます。
8. submitは「...を提出する」という意味の表現で、ここでは受動態で用いられています。
9. attractは「...を引きつける; 呼び寄せる」という意味の表現です。
10. keep -ingで「一し続ける」という意味の表現です。

[Ⅲ]

1. leave for …で「…へ向かって出発する」の意味です。A やC は自動詞なので誤りです。D の arrive at …は「…に到着する」の意味で文意が通りません。
2. be here to -で「一するためにここにいる」の意味で、ここではbe here to help youで「あなたを助けるためにここにいる」という意味で用いられています。
3. take care of …はここでは「…を処理する」の意味で用いられています。
4. make sure to -で「必ず一するように手配する；気を付ける」という意味の表現になります。
5. sign up with …で「…の購入契約をする；…にユーザー登録をする」という意味の表現になります。
6. 文頭の Otherwise は「もしそうでなければ」という意味で、直前文の内容を受けて「もし住宅に Wi-Fi の設備がなければ」という意味になりますから、「自分で手配する必要がある」という文意になるはずで、by yourself「自分で」を入れると意味が通ります。
7. as you might know で「ご存知かもしれませんが」という意味の定型表現です。know が他動詞なのに目的語がないのは、定型句のため目的語が省略されていると考えるとよいでしょう。
8. apply for …で「…に応募する」という意味の表現です。
9. come in handy で「役立つ」という意味の表現です。
10. be all set で「準備が完了している」という意味の表現です。

[Ⅳ]

1. prepare for …で「…の準備をする」という意味の表現です。
2. keep in mind (that) …で「…ということを覚えておく」という意味の表現です。
3. 直前で「人員不足のために」といっていることから、「ホテルには十分な従業員がいないかもしれない」と否定文にする必要があります。
4. along with …で「…に加えて；…と一緒に」という意味の表現です。
5. can の直後ですから動詞の原形が必要ですが、空所の後ろが expected と過去分詞があるので、原形の be を入れて受動態にすればよいと判断します。
6. a lot of …で「多くの…」という意味の表現です。
7. suggest that S (should) 原形で「S に一してはどうかと提案する」という意味の表現です。
8. require O to -で「O に一することを求める」という意味の表現ですが本問では require の後ろに目的語になる名詞がありません。ここでは元の目的語である travelers が受動態になって主語の位置に来ていると判断しましょう。主語が複数形の travelers ですから空所には are を入れます。
9. at all times で「つねに；いつも」という意味の表現です。at の代わりに during でも正解です。
10. either A or B で「A または B いずれか一方」という意味の表現です。

【解答例】

I.

1. [You should let] your children do as they like. (6 words)
2. [When does she] plan to start studying seriously for the entrance exams? (9 words)
3. [Is it possible for] you to help me with my homework? (7 words)
4. [I believe what he] said in the meeting was true. (6 words)
5. [Each time she visits] this city, she eats at her favorite restaurant. (8 words)

II

If I study abroad in the future, I would like to acquire adaptability and problem-solving skills. Of course, studying abroad would also be a chance to improve my language skills, but I can mostly learn a foreign language while living in my own country. However, living in another culture would require me to deal with many situations that are completely different from anything I could experience in Japan. For example, every day I would face situations where the customs and manners are unfamiliar to me. If I could not quickly adapt and start to behave correctly, I might unintentionally offend people. Moreover, I would need strong problem-solving skills to deal with unexpected problems such as cultural misunderstandings. Those kinds of challenges would help me grow and acquire new abilities that I could not acquire at home.

(136 words)

■令和 7（2025）年度学習院女子大学一般選抜・英語 出題傾向と学習アドバイス

【出題傾向】

大問番号	項目	内容	小問数
〔Ⅰ〕	読解（文法・語彙・語法も含む）	論説文の読解（マーク式）	10
〔Ⅱ〕	語彙・語法・文法	空所に最適な表現を選択（マーク式）	10
〔Ⅲ〕	読解（文法・語彙・語法も含む）	会話文中の空所を補充（マーク式）	10
〔Ⅳ〕	読解（文法・語彙・語法も含む）	英文中の空所を補充（記述）	10
〔Ⅴ〕	作文	自由英作文（記述）	－

大問〔Ⅰ〕

A・B方式ともに、「文中の語句の意味」「文中の空所を補充するのに妥当なもの」「英文で述べられている内容に一致する（あるいは一致しない）もの」「英文の表題として妥当なもの」などを問う設問が多く、オーソドックスな長文読解問題といえるのではないのでしょうか。

英文のテーマについてですが、A方式は、2023年度は「海外旅行のすすめ」、2024年度は「パンデミック後の中国人の旅行」、2025年度は「イタリアにおけるオーバーツーリズム」で、B方式は、2023年度は「手書きでメモを取ることの効用」、2024年度は「血液型と日本社会への影響」、2025年度は「イギリスの博物館」です。いずれも高校生が容易に理解できる内容といえます。

英文の語数については、A方式は、2023年度は約 690 語、2024年度は約 680 語、2025年度は約 710 語でした。B方式は、2023年度は約 560 語、2024年度は約 640 語、2025年度も約 640 語でした。

大問〔Ⅱ〕

A・B方式ともに、定型句や熟語表現も含めた「語彙・語法の問題」が大きなウェイトを占めています。「文型・時制・助動詞・仮定法・比較・関係詞・接続詞」などといった、いわゆる「純粋な文法問題」はあまり目立ちません。

大問〔Ⅲ〕

2者による会話文中の空所を補充するのに妥当なものが問われます。会話の流れをきちんと捉えることが必要であるのはもちろんですが、「会話に特有な口語表現」に関する知識よりは「文法・語彙・語法」といった英語力のベースとなる部分をみています。

英文の語数については、A方式は、2023年度は約 220 語、2024年度は約 260 語、2025年度は約 260 語です。B方式は、2023年度は約 240 語、2024年度は約 230 語、2025年度は約 240 語です。

大問〔Ⅳ〕

さほど長くはない英文中の空所に入れるべき 1 語を記述するという問題です。英文の内容をよく理解した上で、「文法・語彙・語法」に関する知識も合わせて判断する力が求められます。

英文の語数については、A 方式は、2023 年度は約 160 語、2024 年度も約 160 語、2025 年度は約 140 語です。B 方式は、2023 年度は約 180 語、2024 年度は約 160 語、2025 年度は約 180 語です。

大問〔Ⅴ〕

いわゆる「自由英作文」の問題です。A・B 方式ともに、2017 年度から「60～80 語の英語で書きなさい」となりました。

テーマについては、A 方式は、2023 年度は「小学校のオンライン教育の利点」、2024 年度は「小学校より中学校を好む理由」、2025 年度は「お気に入りの日本の休日やお祭りは何か」で、B 方式は、2023 年度は「これまでに経験した中で最も親切な行為」、2024 年度は「趣味を持つことの恩恵」、2025 年度は「運動をすることの利点」となっています。

【学習アドバイス】

60 分という制限時間はあまり余裕のあるものではありません。手際よく問題をこなしていけないと、どこかで大きな失点を重ねるおそれもあります。そこで、まず大問ごとに要する時間を設定しておくことをお勧めします。学力の個人差や、英文の語数によるとは思いますが、「大問〔Ⅰ〕は 20 分以上、大問〔Ⅱ〕～〔Ⅳ〕はそれぞれ 7～8 分程度、大問〔Ⅴ〕は 15 分程度」が目安となるのではないのでしょうか。

大問〔Ⅰ〕

基本的には、パラグラフの順番どおりに小問 10 題が設定されているので、パラグラフを 1 つ読むごとにそれに対応する小問をチェックしていくのが正攻法といえます。

具体的な学習法としては、まず「長文の読解に慣れる」という観点からは、センター試験や、共通テストの過去問を、時間を気にせず日々読む練習をしましょう。

もちろん、1 文の意味が正確に読み取れなければ、パラグラフ全体で述べられていることを正しく理解することもできませんから、上に述べた長文読解の練習とは別に、「文法の基本事項を身につけたうえで、英文の構造をできる限り正確に分析し内容を把握する」という、読解のオーソドックスな勉強も継続して下さい。「英文の構造を把握できるようになる」ということは、「英文を作り上げることができるようになる」ということに直結していますから、大問〔Ⅴ〕の自由英作文の問題を解く際にも大きなプラスとなります。文構造の把握に自信が持てない人は、「構文」に重点を置いた市販の参考書を活用すると良いでしょう。

大問〔Ⅱ〕

〔出題傾向〕のところで述べたように、大問〔Ⅱ〕は定型句や熟語表現も含めた「語彙・語法の問題」が大きなウェイトを占めています。極端に難しい表現を問うてはなりませんから、市販の単語集・熟語集で中級レベルまでの語彙と慣用表現をしっかりと身につけるとともに、もちろん読解問題で文法的な知識が問われるわけですから、その対策も兼ねて「文法・語法問題集」も一冊仕上げておくとい良いでしょう。

大問〔Ⅲ〕〔Ⅳ〕

大問〔Ⅱ〕に対応するために勉強したことが、大問〔Ⅲ〕〔Ⅳ〕にも生かされることと思います。

大問〔Ⅴ〕

「自由英作文」の出題があるからといって、無計画にこの種の問題形式にただ取り組むというのは得策ではありません。まず第一歩は、若干たどたどしいものであっても、とにかく文法的に正しい英語が書けるようになることです。そのためには、まず基本的な例文（200～300個程度）を頭に入れ、それに修正を加えながら英文を作り上げていくという練習が必要となります。

自由英作文はあくまで「英語」の試験なので、文法的・構文的に正しい英語が書けているかどうか大きなポイントになります。内容の巧拙よりも、「正しい英語」を書くことが大切です。

皆さんにとって一番問題となるのは、自由英作文は「自学自習」というやり方では限界があるということでしょう。過去問の模範解答例は、英語がそれなりのレベルに達した人が書いたものですから、それを読んだところで、自分が書いた英文がどれくらい正しくどれくらい間違っているのか、あるいは実際に何点くらい取れているものなのかを判断することはまず不可能です。それゆえ「添削も含めた、他人による指導」がどうしても必要となります。学校や予備校等の先生にチェックしてもらうようにするのが最も効果的な勉強法になるでしょう。

■令和 7（2025）年度学習院女子大学一般選抜・英語ライティング

出題傾向と学習アドバイス

（英語コミュニケーション学科のみ）

【出題傾向】

A・B方式ともに、過去3年間（2023～2025）は大問が2題で、Ⅰは「指定された書き出しに続けて少なくとも5語を付け加えることによって、英文を完成させなさい」という記述問題が5題で、Ⅱは「与えられた英文を読んで、以下の問い（英語）に対するあなたの答えを120語から150語の英文で記述しなさい」という問題になっています。

Ⅰでは、文法の知識と語彙力に加えて、構文を把握する力も問われています（たとえば2021年度のB方式では、We apologize for に続く部分の記述が求められていますが、後には謝罪する内容として意味が通る動名詞を書かなければならない、ということ判断する必要があります）。

Ⅱは、「与えられた英文の理解を前提とした自由英作文」です。問われている内容については、A方式は、2023年度は「日本の男女の不平等の主な原因は何だと思いますか。状況を改善するために何ができると思いますか。例と理由を挙げて説明しなさい」、2024年度は「ソーシャルメディアは否定的な影響があるということに賛成しますか」、2025年度は「自動運転の車の利点は何だと思いますか。自動運転の車を利用したいですか。具体例と理由を含めて説明しなさい」で、B方式は、2023年度は「服装を選択する以外に、日常生活のどんな活動が環境に影響を及ぼしますか。環境への良くない影響を減らすために何ができますか。具体例を挙げなさい」、2024年度は「映適マーク（映画倫理機構による適正マーク）は近い将来に映画産業を変えることになると思いますか。映画産業に加えて、日本の他の産業は似たようなひどい労働条件という問題に直面していますか。具体例や理由を使ってあなたの答えを説明しなさい」、2025年度は「将来留学したらどんな技能を習得したいですか。具体例と理由を含めて説明しなさい」です。

【学習アドバイス】

Ⅰに関しては上で述べたように、文法の知識と語彙力に加えて構文を把握する力も問われています。したがって、「文法の基本事項を身につけたうえで、英文の構造をできる限り正確に分析し内容を把握する」という「構文」に重点を置いた勉強を継続していくとともに、市販の単語集・熟語集で中級レベルまでの語彙と慣用表現をしっかりと身につけ、さらに「文法・語法問題集」も一冊仕上げておけば、十分に対応できると思います。

Ⅱに関しては、「英語」の大問〔V〕（自由英作文）で述べたことがそのまま当てはまります。